

平成21年度第1回学校評議員会議事録

日 時：平成21年6月25日(木) 15:00～16:40

場 所：盛岡第四高等学校 会議室

出席者：学校評議員5名 大石泰夫 阿部道子 藤原藤男
本宮淳一 山田有一

学校側 藤原校長 副校長(高橋・内藤) 川上事務長

- 1 開会のことば
- 2 校長あいさつ
- 3 自己紹介
- 4 協 議 本年度の学校運営方針について

本校の現状について

協議内容 本年度の学校運営方針について

藤原校長：学校運営の基本として、自他の生命の尊重と安全教育を推進し、生徒職員共に明るく活気のある学校を目指したいと考える。それを四高ビジョンの 真理 誠実 敬愛 大志 の実現へとつなげたい。具体的には文武両道を追求し、明るく伸び伸びと充実感のある高校生活を送らせながら、「生きる力」を育成するとともに「進路目標の達成」を図るということである。この学校経営計画について、感想を伺いたい。

評議員A：非常に細かな学校経営計画を作っているが、逆にどこに重点があるのか、見えにくくなっている。四高ビジョン21の四つのスローガンと結びついてくるところが少し具体的に見えない。

評議員B：従来四高が育てたい生徒像と、入学してくる生徒の気質に変化があるのであれば聞きたい。

評議員C：四高ビジョン21のようにかくあるべしではなく、自然的なものがあればいいのではないか。比較するわけではないが、他校よりも何か目立つものがあればいいと思う。

評議員D：生徒たちは年々画一的になり、個性的でなくなっている。目立たなくて自己主張できる環境があればいい。保護者は部活動の支援で頑張る人たちがいるのだが、子どもたちの元気は少し足りないのかな。(笑い)四高のPTA作成のTシャツもある。

評議員E：今までに四高に求めていたものはスポーツも出来て勉強も出来て大学にいけるというイメージ。最近はそれではやっていけない時代である。生徒には目的意識を強く持たせる必要があるのではないか。現代は意識付けをしっかりしないと生きていくのが厳しい。適当にやっていけば何とか食っていけるかな、というそんな時代ではない。生徒の生きる目的意識を大切にしたい。

副校長：四高生は素直だから、いざという時に力が発揮できないというのが四高の弱点だという指摘も前にあったが、今後はいざという時に力が発揮できるようにする、それも課題のひとつかなと思う。

校 長：教育長から四高は他校と違って、明るくのびのびとしているのが四高のカラーだから大事にしてほしいと言われた。そのカラーを大事にしていきたい。明るくのびのび高校生活を充実させながら生きる力をつけさせていきたい。

協議内容 本校の現状について

副校長：四高の現状ということで資料をご覧いただきたい。教育目標については校長が述べたので、次の本校の教育課程の特徴は、2年次から文系・理系に分かれるということ、そして45分7校時授業の実施があげられる。次に平成20年度の進路希望の達成状況と今年度の部活動の活動状況について。昨年度の国公立大の合格者は129名で、

8割を超す生徒が国公立大を希望している。今年度のインターハイの出場は陸上部とテニス部、そして全国の高総文祭では書道部の活躍がある。その他本校の教育活動の特徴は沖縄の八重山高校との交流事業があるし、全国と県の高等学校文化連盟事務局がある。学習と部活動の両立を目指し、粘り強く努力する学校である。

校長：本校は1日体験入学は実施していない。1日ではとても人数が多くて実施できない状況なので、いつでもどうぞ見学に来てくださいというスタンスで、希望者には個別に対応している。現在本校には57中学校から生徒が来ている。

評議員A：全国高等学校文化連盟の事務局があるということは四高の教育活動になにか影響を与えているか。

校長：文芸部の活躍や今年は作家の島田雅彦氏の講演もあったので、よい影響は与えている。文化部は総じて活発な活動である。

事務長：生徒は素直で授業料の滞納のない学校である。

校長：最近気をつけているのは生徒の安全面である。特に自転車の通学状況は危険な面もあるので注意を要する。

評議員B：中学校でも日常の中で自転車の使用については注意が必要である。

評議員C：私が見ている範囲においては自転車のマナー無視はない。ひと頃よりはだいぶ落ち着いている。

評議員D：以前よりは自転車のマナーはよくなっている。

副校長：年度当初、自転車の事故はあったが、交通講話を実施した後、しばらく自転車の事故などはなくなったので、折に触れて何回も繰り返し指導する必要がある。

評議員A：大学では通学の途中の事故はないが、自転車の置き場所の指導が大事である。

評議員E：自転車事故防止については繰り返しの指導をお願いしたい。

副校長：今後四高はどうあればいいのか。ほどほどでよいとか、いやこれからの世の中ほどほどはだめだとか、もう四高には少しインパクトがほしいとか、いろいろなご意見があると思うのでお聞きしたい。

校長：四高に対する提言をお願いしたい。

評議員E：ほんとうの目的意識をどこに持っていくか。生徒たちの明るくのびのびは最後の最後の結果であって、最初にあるのではない。素直さも同じ。ただ返事をすればよいというものではない。高いレベルで目的意識を持ってほしい。

評議員D：目的と目標の違いをどうとらえるか。目的は心の問題、目標は具体的な数字や達成の問題。明確にしないとほんとの明るさも厳しさも生まれて来ない。

評議員C：現代は親も子ども気質が変わってきている。教師が授業の中で話をする、あるいは外部の人を呼んで進路を語るような場を設定することが大事だ。

評議員B：中学校から見ると四高には上位のリーダー層が入学している。そこそこやれる生徒たちである。その生徒たちの心にどうやって火をつけるか。志を高く持てるそしていろいろな刺激に応えられる生徒たちであると思う。そのよい刺激を与えてほしい。

評議員A：明るくのびのび素直であることは人間にとってよいことであり、美徳である。ただ、これから先生生きていく力をそれと一緒につけなければだめだろうと思う。自分のことを表現する、プレゼンテーションできる力を育てることが大切になってくる。自分の意見を言うことに明るくのびのびしているそういう学校がよいと思う。

校長：皆さんの貴重なご意見を何らかの形で学校教育に生かしていきたい。今後ともよろしくお聞きしたい。

5 閉会のことば